

【vol.36】マルーン5の楽曲でキーを分析してみる ～その2～

こんにちは、大沼です。

さて、前回に引き続き、“Maroon 5”の『Payphone』を題材に楽曲の分析の仕方を学んでいきましょう。

段々とテキストの内容が、音楽の知識の「扱い方」になってきましたね。

最近のテキストに書いてあるようなことが理解できると、本当の意味で「音楽を勉強、理解することの楽しさ」が感じられるようになってくるでしょう。

普段、音楽を「聴いて楽しむ」というような、リスナー的な状態だけで万事 OK、と言う場合は、この講座で学んでいるようなことを知っている必要はありません。

しかし、我々のような『楽器を演奏する(したい)』という欲求がある人種は、もっと深く音楽に踏み込んでいかなければなりません。

今回のテキストの内容をこなしてもらえれば、「これまでずっと学んできた事に、何一つ不要なものなどなかった」と言うことがわかってもらえると思います。

最初は理解するのに時間がかかるかも知れませんが、これが自力でできるようになると、「音楽が理解できる」ことが「快感」となってきます。

そしてこうなってくると、音楽がやめられなくなってくるのですね。

その中毒症状にたどり着く為に、頑張ってください。

“Maroon 5” 『Payphone』 Youtube 原曲リンク

http://youtu.be/5FIQSQuv_mg

(※万が一、リンク先が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名等で検索してください)

今回は、この曲の「キー」と「コード進行」、そしてその進行のインターバルを確認しましたね。

もう一度簡単に確認しておきましょうか。まずコード譜はこちらです。

1 Eadd9 2 B 3 G#m7 4 F#sus4 (F#)

次にこの進行を分析しやすくする為に、トライアドまで簡略化すると、

E→B→G#m→F#

という進行になります。

で、この曲は key=B なので、B キーのダイアトニックコードと照らし合わせると、

- I、B (BM7)**
- II、C#m (C#m7)**
- III、D#m (D#m7)**
- IV、E (EM7)**
- V、F# (F#7)**
- VI、G#m (G#m7)**
- VII、A#m(♭5) (A#m7(♭5))**

と、このように対応していて、インターバル的に進行を見るならば、

IV→I→VI m→V

といった進行になっていましたね。

さて、この講座を作るにあたり、僕はこの曲を耳コピしている訳ですが、前回、「2つ目のコード(2小節目)を聴き取った時点でkeyの予測がついた」と言いました。

今回はこの「なぜそこでkeyがわかるのか？」と言うことを事例に、耳コピの基礎的な方法や、分析の仕方を解説して行きたいと思います。

まず、とある曲を耳コピしたい場合、その曲のキーを知る必要があるので、普通は「コード進行を聴き取る」という作業を最初に行う事になります。(※一部のフレーズだけ弾きたい、と言うような場合でなければ)

多分に洩れず、僕も曲をザッと聴いて全体像を確認した後、コード進行を聴き取る事から始めました。

で、コードを聴き取る際、一番初めにやる事は、「コードのルート音を聴き取る」と言うことです。

これはギター之音でも良いですし、もっとわかりやすいモノとして、「ベースラインから探る」という方法もあります。

この『Payphone』という曲は、出だしから暫くは、ベースらしいベース(楽器としての)が入っていません。(※その時鳴っている「最低音」は聞こえますが)

とりあえず、ルート音を聴き取りやすい場所としては、動画で言うと、0:10~0:18 辺りの4小節と、0:27~からのシンセサイザーかなにかで、揺れたピアノっぽい音でルート音が鳴らされている部分。

そして一番わかりやすいのが、最初のサビに入る0:53~以降、と言った所でしょう。

この様に「まずは聴き取りやすい場所を見つけて、そこから聴き取る」と言うのも1つのテクニックで、そういった部分を見つけたら、まずはベース音(ルート音)から探る、と。

試しに、最初に載せた譜面に合わせて、1小節ずつ、
E→B→G#→F#とベース音(コードのルート音)を弾いてみると、
合っていることがわかると思います。

これでめでたく、聴き取った4小節間のコード進行が、

E なんとか→B なんとか→G#なんとか→F#なんとか

である事がわかりましたね。

そして次は、ベース音を聴き取った部分のコードが、
メジャーなのかマイナーなのか、を判別します。

これは慣れてくると、聴いた時点で「メジャー、マイナーどちらなのか？」が、
わかったりするのですが、わからない場合、最初は2種類のコードを曲にあわせて弾いてみて
どちらが合っているかを確認するのですね。

なので、

- ・最初のE音ルートの部分は、E(メジャー)なのか？Emなのか？
- ・次のBルートのコードはB(メジャー)なのか？Bmなのか？
- ・同じ様に、G#ルートのコードは？、F#ルートのコードは？

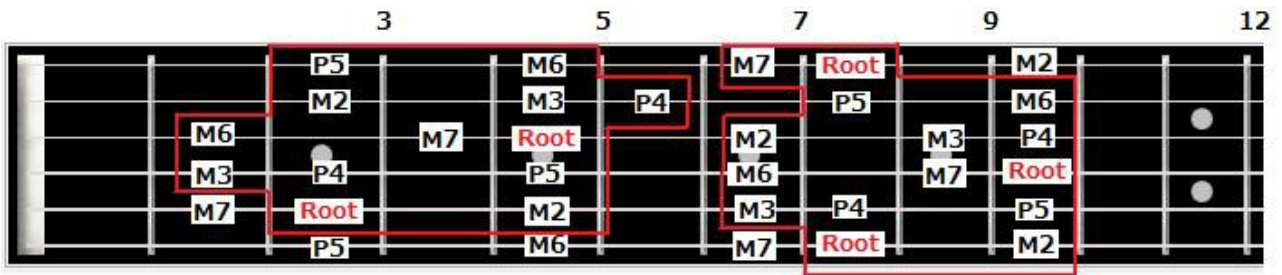
と、それぞれ1つずつ、コードをチェックしていきます。

ここで使うのが「1、keyとダイアトニックコードの関係性」と、以前覚えた、
「2、指板上のインターバルの位置」の2つの知識です。

※1、メジャーキーのダイアトニックコードとそれぞれのインターバル

I	(IM7)
II m	(II m7)
III m	(III m7)
IV	(IVM7)
V	(V7)
VI m	(VI m7)
VII m(♭5)	(VII m7(♭5))

※2、指板上のインターバルの位置



上記の図2の指板上のインターバルは、Cメジャーキー時の、Cメジャースケールのポジション図になっていますが、各音の位置関係はそのままに、今コピーしている曲のキー(key=B)に合わせてずらします。

では、これらを踏まえた上で、先ほど聴き取った、

E なんとか→B なんとか→G# なんとか→F# なんとか

のコード進行の確認に戻りましょう。

まず、最初のEルートのコードなのですが、自分が知っている、適当なE(メジャー)とEmのコードフォームを曲に合わせて弾いてみると、E(メジャー)のコードである事がわかると思います。

最初の小節の、Eルートのコードがメジャーである場合、ダイアトニックコードのインターバルで言うならば、一般的には、

「そのコードはI (IM7)かIV(IVM4)のどちらか」

と言う事になります。

- I (IM7)
- II m (II m7)
- III m (III m7)
- IV (IVM7)
- V (V7)
- VI m (VI m7)
- VII m(♭5) (VII m7(♭5))

ここで『V(V7)は?』と思うかも知れませんが、いわゆる普通の歌モノの曲で、

V(5度)のコードでスタートする曲はあまりありません。

(※この辺り、セカンダリー・ドミナントの事などを考えたりすると、色々思う所もあるのですが、紛らわしくなるので、現段階では、5度のコードのスタートはあまりない、と思っていてください)

(※※ちなみに、3コードブルースの出だしはドミナント7th(X7)ですが、あれはI 7ですね)

で、ここからわかることは、

・この、最初のEのコードがIのコードならば、この曲はEメジャーキーである

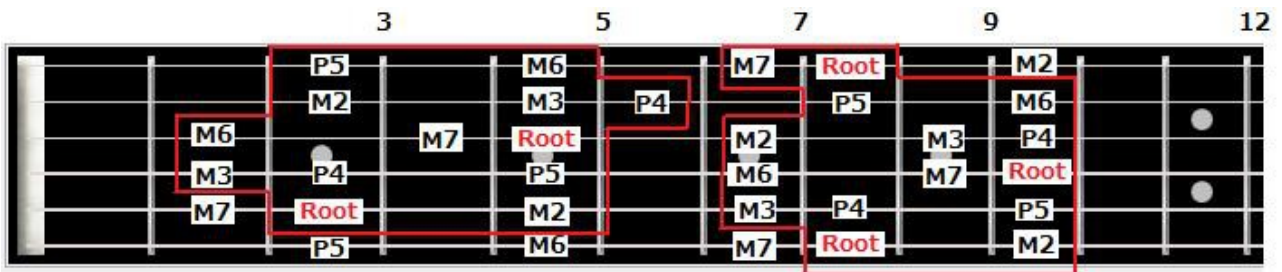
と言うことと、

・この、最初のEのコードがIVのコードならば、この曲はBメジャーキーである

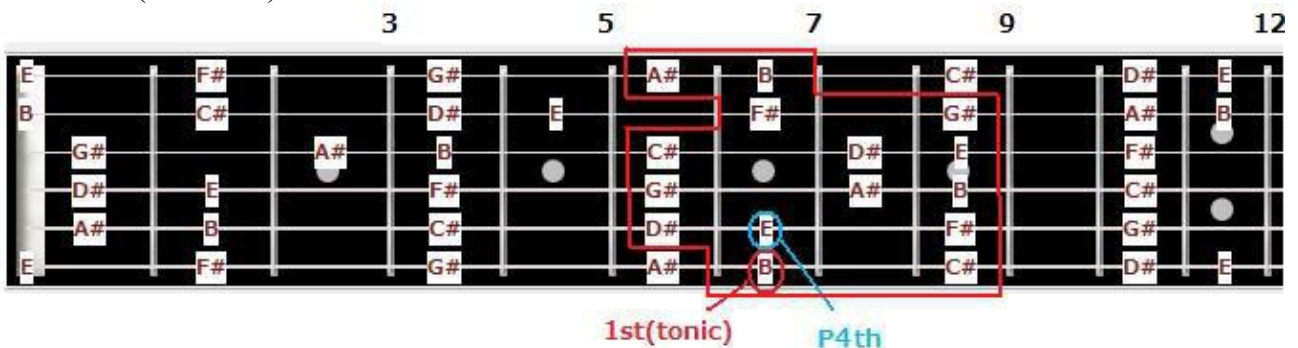
と言うことの2つです。

EがIV(4度)のコードなら、なぜkeyがBになるのか？についてですが、この表と照らし合わせてみるとよくわかります。

このCメジャー(スケール)の表を、



Bメジャー(スケール)にずらして、E音とB音の関係を見てみると、



この様に、B=I(1st)、E=IV(P4th)の位置関係になるからです。

でも、この E 音ルートのコードが、E(メジャー)である事がわかった時点では、この曲の key が E なのか B なのかはまだわかりません。

なので次の B 音ルートのコードも E の時と同じように、メジャーかマイナーかを、両者のコードを当ててみて判別します。

今は最初に譜面を載せているのですでにわかっていますが、このコードは B メジャーでしたね。

The image shows a musical score for guitar in 4/4 time. The key signature has three sharps (F#, C#, G#). The chords are: Eadd9 (measure 1), B (measure 2), G#m7 (measure 3), F#sus4 (measure 4), and (F#) (measure 5). The guitar part is written on a six-string staff with a treble clef. Below the staff, the letters T, A, and B are written vertically, likely indicating fret positions or string numbers.

ここまで来ても、先ほどと同じく、E メジャーと B メジャーのコードがわかっただけの時点では、key=E なのか key=B なのかは、まだ完全にはわかりません。

なぜなら、「key=E の I → V の進行」と、「key=B の IV → I」の進行の両方の可能性がありますからね。

※key=E の場合(E メジャースケール)の E 音と B 音のインターバルの関係

The diagram shows the E major scale on a guitar fretboard. The notes are: E (open), F# (2nd fret), G# (3rd fret), A (4th fret), B (5th fret), C# (7th fret), D# (9th fret), E (12th fret). Red boxes highlight the interval between E and B. A blue circle around the B note is labeled 'P5th' (Perfect Fifth), and a red arrow points to the B note from the text '1st' (First degree), indicating that B is the first degree of the B major scale.

先ほどのように、B 音を 1 度とするならば、E 音は 4 度になりますが、E 音を 1 度とするならば、B 音は 5 度の音になります。

ではなぜ、B コード(2 小節目)を聴き取った時点で key がわかったのかと言うと、ヴォーカルメロディーが B メジャースケールで出来ているから、なのです。

試しに、出だしのサビのメロディーをギターで弾いてみると、こんな感じになります。

この、コードだけを見たら、key が E なのか B なのかわからない時点でも、メロディーが B メジャースケールで作られている事によって、耳が B メジャーのキーを感じるんですね。

ちゃんとこのポジションで弾くことができます。

で、特に重要なのが、1小節目の1弦6フレットのA#の音。

この音はBメジャースケールにはあるけれども、Eメジャースケールには無いものです。

この音をメロディーが通っている事によって、聴いている人の調性(keyの感覚)がBメジャーになっているのです。

The image shows two systems of musical notation. The first system is for the B major scale, starting on E and ending on B. The guitar TAB below it shows the fret numbers: 8-9-7-9 | (9)-7-7-6-7-9 | (9)-9-9-8-9-9. The number 6 is circled in red. The second system is for the G# minor scale, starting on G#m and ending on F#. The guitar TAB below it shows the fret numbers: (9)-8-6 | 9-8-6 | (6).

図、B メジャースケール

The diagram shows a fretboard from fret 3 to 12. The notes of the B major scale are highlighted in red boxes: A# (fret 5, 1st string), B (fret 7, 2nd string), C# (fret 9, 3rd string), D# (fret 11, 4th string), E (fret 7, 5th string), F# (fret 9, 6th string), G# (fret 11, 6th string), and A# (fret 5, 1st string). The tonic A# is labeled '1st(tonic)' and the fourth degree E is labeled 'P4th'.

図、E メジャースケール

The diagram shows a fretboard from fret 3 to 12. The notes of the E major scale are highlighted in red boxes: E (fret 5, 1st string), F# (fret 7, 2nd string), G# (fret 9, 3rd string), A (fret 11, 4th string), B (fret 7, 5th string), C# (fret 9, 6th string), D# (fret 11, 6th string), and E (fret 5, 1st string). The tonic E is labeled '1st' and the fifth degree B is labeled 'P5th'.

この様に、両スケールの構成音を比べて見ると、1音だけ(A音とA#音が)違うことがわかりますね。

そして残りの G#音ルートと F#音ルートのコードを判別していくと、G#はマイナーのコード(G#m)、F#はメジャーのコードである事がわかります。

G#m は仮に key が E だとしたら III m にあたるコードなので、Key=B の時と同じように G#m になるのですが、

F#は Key=E のときは II m のコードにあたり、F#m になります。

※key=E 時のダイアトニックコード

- I、E
- II、F#m
- III、G#m
- IV、A
- V、B
- VI、C#m
- VII、D#m(b5)

ですが今回は F#メジャーのコードなので、key=B 時の V のコード、と解釈できます。

※key=B 時のダイアトニックコード

- I、B (BM7)
- II、C#m (C#m7)
- III、D#m (D#m7)
- IV、E (EM7)
- V、F# (F#7)
- VI、G#m (G#m7)
- VII、A#m b5 (A#m7 b5)

と、言うことで、この曲は key=B だとわかるのですね。

コード進行から、楽曲を耳コピーして分析する時の基本的な作業手順としては、

- 1、コードを聴き取る適当な範囲を決める(聴き取りやすい箇所を選ぶのもアリ)
- 2、どの楽器でも良いので、その範囲のベース音(コードのルート音)を聴き取る
(※コードを聴いただけでわかるなら、いきなり聴き取っても OK)
- 3、それぞれのルート音のコードがメジャーかマイナーかを判別する
- 4、いくつかコードが判別できると、ダイアトニックコードの構成のルールによって
key とその key に対応するスケールが導き出せる
- 5、key が判別できたら、残りのパートを順次聴き取っていく
- 6、そのコード進行が key に対してインターバル的にどうなっているのか？
コードとフレーズの関係性はどうなっているのか？を分析する。

と、こうなりますね。

もちろん、楽曲の構造とその人の知識によっては、ギターのリフや何かしらのフレーズをちょっと聴き取るだけで key がわかったりもしますし、

今回の曲でもやったように、メロディーを聴き取って、そこからスケールを割り出して key の判別をする事も出来たりします。

実際の所、全ての知識を複合的に使う事になるので、耳コピの方法にどれが正解と言うものではありません。

強いて言うならば、

『常に(使う必要のある知識と感覚を)全部使う』

が、もっとも正しい表現だと言えるのではないのでしょうか。

こういったコピーと分析を繰り返していくと、曲を聴き取るスピードが段々と速くなってきます。

その先に待っているのが「シンプルな曲なら 30 分以内にコピーできる」とか、そういう世界なのですね。

それでは、今回は以上になります。

なんだかんだ言っていたら、テキストが結構なボリュームになったので、1つ1つゆっくりと確認しながらやってみてください。

ありがとうございました。

大沼